

会 議 録

会議名 (審議会等名)	相模原市水とみどりの審議会			
事務局 (担当課)	水みどり環境課 電話042 - 769 - 8242 (直通)			
開催日時	平成30年7月25日(水) 10時00分～12時30分			
開催場所	相模原市立環境情報センター 2階 学習室			
出席者	委員	9人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	12人(環境共生部長、水みどり環境課長、公園課長、他9人)		
公開の可否	可	不可	一部不可	傍聴者数 0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 公園樹木等維持管理計画について</p> <p>(2) 次期「水とみどりの基本計画・生物多様性さがみはら戦略」の策定について</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 現計画の評価・検証、統廃合の結果について</p> <p style="padding-left: 20px;">イ 外部(団体、市民)アンケート等の実施内容について</p> <p>3 その他</p>			

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開会

2 議題

(1) 公園樹木等維持管理計画について

事務局による説明の後、質疑応答を行った。

計画の11ページについて、平成22年度頃にかけて維持管理費が増額しているが、これは政令指定都市移行に影響してのことか。

実際には、平成17年度及び平成18年度の合併により公園数が増えたため、徐々に維持管理費が増額していったものである。

パークマネジメントプランでは、今後も公園を増やしていくことになっていたと思うが、維持管理費との整合はどうか。

公園自体は、パークマネジメントプランに基づいて今後も整備していくこととしている。樹木については、既存の公園でも管理しきれない部分が出ていることから、維持管理に関する計画を今回策定し、限られた予算の中で効果的な維持管理に努めたいと考えている。

公園の植栽における在来種への配慮はどうか。

公園課で管理する「公園」は、人工的な空間として整備したものであり、あえて大きくなりすぎない樹種を選定するなど、在来種に限定するのは困難であると考えている。

公園ごとに、例えば「高齢者」や「子ども」といった特徴・コンセプトはあるのか。

現状ではないが、今後は公園ごとや地域に合わせた特色を持たせるなどの方向性も考えていくべきだと認識している。

森林や山間部のいわゆる自然環境と、都市部の公園での多様性は別のものと考えた方がよい。

公園における多様性とは何か、という定義付けが必要と考えている。

22ページの訴訟事例のように、樹木の場合も予期せぬことは起きるので、安全管理について注意してほしい。

リスク対策について、今後、検討していくべき課題と認識している。

既存の公園には、例えば病気になりやすい樹種など、管理する上で適切とはいえない樹木が植栽されている。

既存の公園にある樹種には、そういったものがあることは認識しており、今後

の整備や維持管理時において、専門家へ相談するなどした上で植え替えなどをおこなっていきたい。

樹木の本数を台帳から算出しているが、斜面樹林のような樹林地の樹木は対象になっているのか。

管理台帳に記載している樹種は、公園整備時に新規に植栽した樹種に限定しており、公園として位置付けるより前からある樹木既存樹林などは記載されていないため樹木本数の対象から外れている。

アレルギー症状の出る樹種もあるので、注意してほしい。

(2) 次期「水とみどりの基本計画・生物多様性さがみはら戦略」の策定について

ア 現計画の評価・検証、統廃合の結果について

事務局による説明の後、質疑応答を行った。

今回の評価・検証は、実施主体は誰なのか。

各施策には、便宜上、所管課を設定しており、その施策に影響を受ける、又は与える所属を関連課としている。事業概要等は所管課が記載している。

今回の評価・検証では、事業の実施主体である所管課のほか、関連課にも検証作業を依頼しており、複数の観点から作業している。

例示の施策 5216 は、施策と事業概要が一致しない、という理解でよいか。

施策 5216 は、「自然環境観察員の運営」と「みどりの少年団等の育成」という2種類の事業があるにも関わらず、事業概要が自然環境観察員の制度説明となっており、事業概要として成立していないことから、こういったものも見直すというものである。

今後の予定について、具体的にはどのように考えているか。

今後、庁内ワーキング会議の構成員を中心に、評価・検証結果と今後の方向性について調整し、次々回の審議会（1月開催予定）に最終的な検討結果をお示ししたいと考えている。

イ 外部(団体、市民)アンケート等の実施内容について

事務局による説明の後、質疑応答を行った。

項目 Q2-13「行動」とは何を指すのか分かりづらい。前回改訂時は、生物多様性という言葉を知っているか否か、という聞き方だったが。

アンケートの先頭に各計画の概要や分かりにくい用語の解説を追加する予定であり、その中で行動内容についても触れることとしている。

前回の内容と同じ聞き方をして、経年変化を見た方が良いと思うが。

委員の意見を踏まえ、前回内容と同じ内容の次に行動について触れるなど、工夫した質問構成に変更する。

回収率を上げるための工夫が必要ではないか。例えば、このアンケートに回答することが将来的に自らの役に立つ、などのような文言を加えるなどの。

アンケートの主旨を説明する文言の中で、回収率の向上を意識したものとなるよう工夫したい。

Q1-4の職業のうち、会社員と契約社員の区別は不要ではないか。

職業や業種については、クロス集計の仕方によって内容を変更するのが望ましく、効率的に回答が集計できるよう修正する。

Q2-17のような普及啓発の方法については、例えば一口に「SNS」と言っても、実際にはツイッターやフェイスブック、ラインなど多種に渡り、今後の普及啓発方法を検討するにあたっては、できるだけそれらも含めて細分化した方が良いのではないか。

電子媒体の追加のほかにも、例えば自治会の掲示板など、地域の特性による普及啓発方法があると考えられるが。

普及啓発の項目の細分化については、水とみどりの基本計画のほか、環境基本計画や地球温暖化対策実行計画でも触れている内容であり、足並みを揃えた聞き方とする必要があるため、内部で調整することとしたい。

3 その他

事務局から、次回の会議日程等について説明した。

以上

水とみどりの審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	田淵 俊人	玉川大学農学部 教授	会長	出席
2	南 正人	麻布大学獣医学部 准教授		出席
3	吉永 龍起	北里大学海洋生命科学部 准教授		出席
4	鈴木 千景	公募委員		出席
5	秋永 真里子	特定非営利活動法人境川の斜面緑地を守る会 理事		出席
6	飯塚 裕美	特定非営利活動法人みどりのお医者さん		欠席
7	熊谷 達男	「小松・城北」里山をまもる会 副会長		出席
8	高橋 孝子	特定非営利活動法人相模原こもれび 理事長	副会長	出席
9	野口 恭夫	相模原商工会議所 3号議員 (東京ガス株式会社神奈川西支店 支店長)		出席